

## ケニア国 JICA プロジェクト研修員の受入れ

### はじめに

林木育種センターでは、平成 24 年に国際協力機構 (JICA) がケニア国で開始した「気候変動への適応のための乾燥地耐性育種プロジェクト」において、短期専門家の派遣、研修員の受入れを行っています。

ここでは、今年度実施した研修について紹介します。

### 1. 研修の概要

国内での研修員受入れは、プロジェクト相手機関であるケニア森林研究所において当プロジェクトの取組に関わる職員の知識、技量の向上を目指して行われるもので、プロジェクトの計画に沿って毎年度計画的に実施されます。

今年度は「DNA 分析」、「育種理論」、「増殖技術」、「耐乾燥性」の 4 コース各 2 名で合計 8 名の研修員を受け入れました。

#### (1) 「DNA 分析」コース (6 月 9 日～7 月 13 日)

主に育種センターにおいて、高度な分析機械を活用した実験手法の習得、データ解析手法などについて重点的に取り組みました。また、岐阜県立森林文化アカデミー等で DNA マーカーを用いた分析の先進的研究事例の学習、西表熱帯林育種技術園で熱帯樹種の増殖・管理技術の実技に取り組みました。

#### (2) 「育種理論」コース (6 月 9 日～6 月 29 日)

林木育種センターにおいてプロジェクトでの育種事業の実施に必要な育種理論、手法の学習や、今後造成予定の検定林の作業手順の確認を行いました。また、理解を深めるため東北育種場奥羽育種保存園での育苗に関する実務の学習、山形県森林研究研修センター及び山形県林木育種場での取組を視察しました。

#### (3) 「増殖技術」コース (6 月 23 日～7 月 13 日)

東北育種場において、取組対象樹種と



写真-1 「育種理論」：検定林の視察

なっているメリア (*Melia volkensii*)、アカシア (*Acacia tortilis*) を使った増殖技術の習得、苗畑および採種園の管理に必要な技術の確実な習得のため実習を主体に取り組みました。

#### (4) 「耐乾燥性」コース (6 月 23 日～7 月 20 日)

九州大学において、耐乾燥性育種に係る樹木の成長特性の把握に必要な光合成能力の測定、クロロフィル蛍光の測定、水分特性の測定等に関する実際の技術の習得に取り組みました。

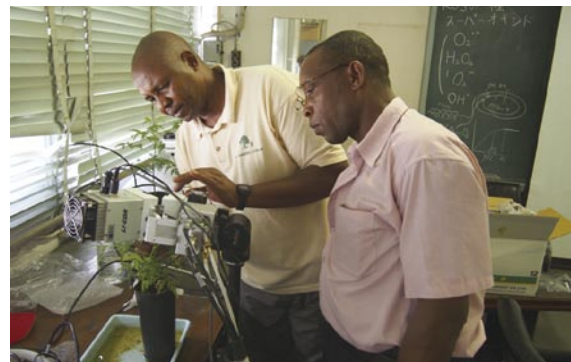


写真-2 「耐乾燥性」：光合成能力の測定実習

各コースの研修員は積極的に研修に取組み、今後のプロジェクト実施に必要な知識、技術等の習得に励んでいました。

### 2. 今後の予定

来年度も引き続き、ケニア側から研修員を受け入れる予定であり、現地の状況も踏まえながら適切な研修となるよう取り組んでいく予定です。

(海外協力部 海外育種情報主幹 渡邊敬治)